

県管理河川の概要について

- これまでの主な治水対策
- 鳴瀬川水系の現状と課題(治水・利水・環境)

これまでの治水事業：漆沢ダム

【諸元】

河川：鳴瀬川

形式：中央コア型ロックフィルダム

堤高：80m

有効貯水容量：16,000千m³

【目的】

洪水調節、流水の正常な機能の維持、

上水道用水、工業用水、発電

【工期】

着工：1968年（昭和43年）

完成：1980年（昭和55年）



これまでの治水事業：南川ダム



【諸元】

河川：南川
形式：重力式コンクリートダム
堤高：46m
有効貯水容量：9,200千 m^3

【目的】

洪水調節、流水の正常な機能の維持、
上水道用水

【工期】

着工：1975年（昭和50年）
完成：1987年（昭和62年）

これまでの治水事業：宮床ダム



【諸元】

河川：宮床川
形式：重力式コンクリートダム
堤高：48m
有効貯水容量：5,000千 m^3

【目的】

洪水調節、流水の正常な機能の維持、
上水道用水

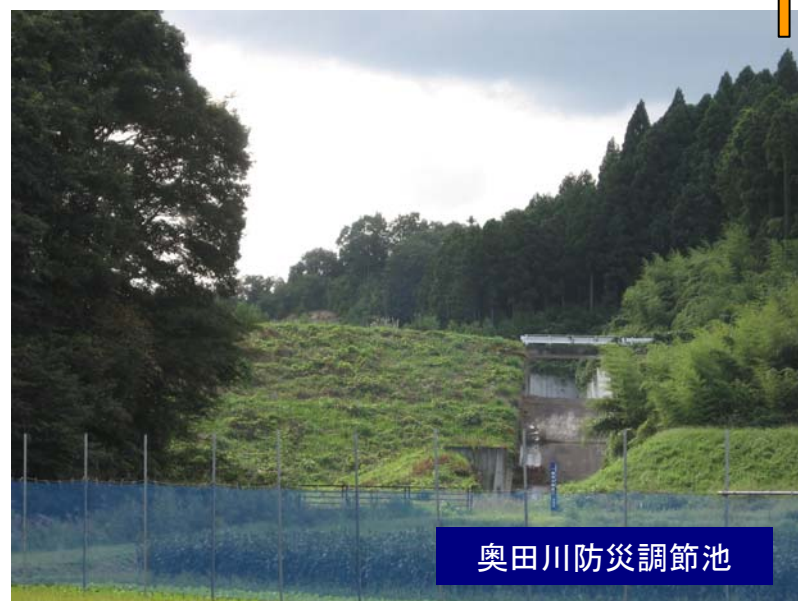
【工期】

着工：1982年（昭和57年）
完成：1998年（平成10年）

これまでの治水事業：鳴瀬川本川の改修



これまでの治水対策：防災調節池



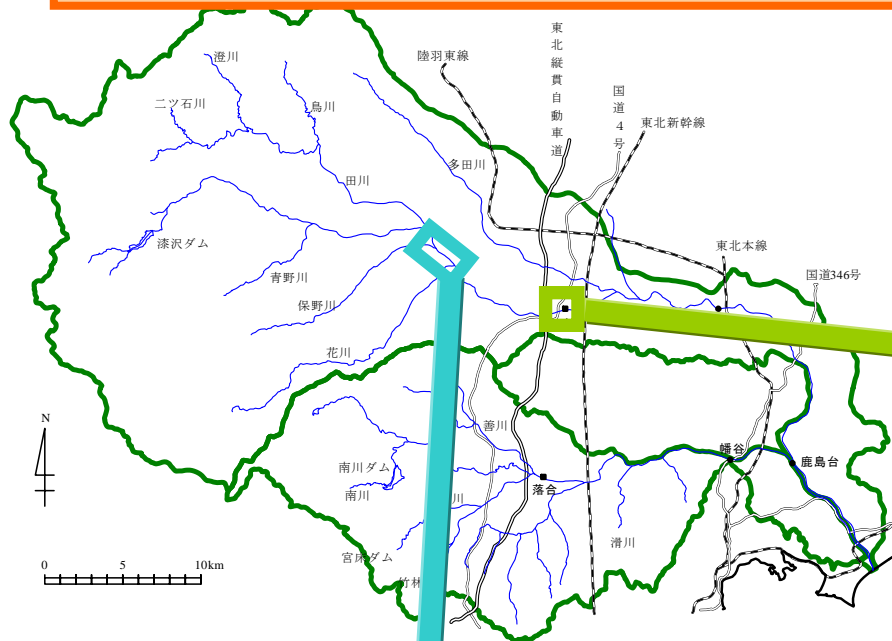
産業の発展を
支える
治水基盤整備



中小企業基盤整備機構
(<http://www.smr.j.go.jp/sy-navi/index.html>)

鳴瀬川水系の現状と課題：治水面の課題

鳴瀬川本川の河道整備における上下流のアンバランス



下流の国管理区間は概して河道幅が狭い。
特に三本木基準点付近は住家が密集した狭窄部となっている。



上流の県管理河川の河道改修は概成おり、加美町付近では、幅広い河川敷を有している。

鳴瀬川水系の現状と課題：治水面の課題

吉田川下流部の流下能力に合わせた上流または支川の改修の遅れ



善川堤防 善川橋より

（上写真）善川では下流見合いで築堤を行い、低水路整備を行っている。

（下写真）洞堀川は吉田川の整備見合いの暫定改修を行っている。



洞堀川（暫定改修）

鳴瀬川水系の現状と課題：治水面の課題

支障木等による河積阻害



西川

鳴瀬川、西川、善川、竹林川、宮床川などでは支障木により、洪水時の流下阻害が懸念される。



宮床川（袋橋下流）

鳴瀬川水系の現状と課題：環境面の課題

鳴瀬川本川では数多くの固定堰により、魚の遡上が阻害



数多くの固定堰が存在するが、既設の魚道では十分な機能を果たしていない。